

## ◆ 事業名 漆の地産地消と世界への展開の可能性—文化財建造物を通じて—

<b>事業団体</b>	一般社団法人日本漆総合研究所	<b>■事業の目的</b>
<b>活用したふるさと文化財の森</b>	山形県西川町漆林	養生掻きの技術講習、未指定ながらも文化財としての価値のありそうな建築物の見学、漆栽培の最新の研究成果の現状把握、地元産漆による文化財建造物の修復現場の公開と塗り体験
<b>活用したふるさと文化財の森センター</b>		
<b>活用した文化財建造物</b>	山形県指定有形文化財柏倉家住宅、岩根沢三山神社	

### ■事業の内容

- (1) 漆の養生掻き研修会  
日時:平成25年10月19日14:30~15:45  
場所:西川町大学入間字小山、  
対象:一般市民  
参加者:18名  
内容:養生掻きの習得、36年前に植栽した漆林において掻き子による説明と漆掻きの道具を使い実際の漆掻き体験を目的とする。掻き子:蜂谷哲平、高野晴州、渋谷登、渋谷憲嗣、特徴は漆樹を1年で全身傷だらけにして漆を採取しないで、木が弱らないように見極めながら採る。
- (2) 未指定の漆塗り建造物の見学  
日時:平成25年10月19日16:00~17:00  
場所:岩根沢三山神社内要害神社、祖霊社。  
参加者:18名  
江戸時代までの修験道による神社の繁栄の証拠となる朱漆塗りの建造物の見学と理解を目的とする。平素は非公開の建物であるが宮司により特別公開を実現、両社とも内外とも漆塗りて内部は金箔による装飾の本殿(要害神社)、金箔押し立派な彫刻(祖霊社)が見られる。傷みは見られるものの今の内に修復しておけば将来にわたり保存が可能な文化的価値の高い建造物であることを学んだ。解説:三山神社宮司。
- (3)山形県森林研究研修センター研究員による研究報告講演  
日時:平成25年10月19日18:00~18:50  
会場:寒河江市ホテルシンフォニーアネックス、  
参加者:20名、  
内容:講師:山形県主任専門研究員中村人史、補助:庄内支庁林業振興課古澤優佳。パワーポイントを使い、漆のDNAが4種類あることや漆掻きで漆が出るか否かの事前の把握できる装置とその結果、優良苗木の栽培増殖の現状。



漆の養生掻き体験



森林研究研修センター研究員による研究報告講演



柏倉九左衛門住宅前蔵で宝物見学



漆と建築に関するパネルディスカッション

## ◆事業名 漆の地産地消と世界への展開の可能性——文化財建造物を通じて——

- (4) 漆塗り修復現場の公開と塗り体験、文化財建築の見学、  
日時:平成25年10月20日8:00~10:00  
場所:山形県指定有形文化財柏倉九左衛門家住宅、柏倉惣右衛門家、  
参加者:28名、  
内容:地元産漆による優良漆による修復を知ってもらうため文化財建築物に塗っている漆の赤味を帯びた美しさと建造物保存の現状を知ってもらう。  
修復現場の説明と実演:蜂谷哲平、  
案内と説明:日本漆総合研究所3名、ガイド2名。
- (5) パネルディスカッション  
日時:平成25年10月20日10:30~12:30  
会場:寒河江市ホテルシンフォニーアネックス、  
参加者:35名、  
内容:漆と建築に関する基調講演の後、漆の地産地消を建築を対象として実現できないかの検討と江戸時代までの柏倉家の漆による発展の歴史研究や今後の漆増殖における障害等についての討論が目的。基調講演:東京芸術大学三田村有純教授、パネリスト:文化庁関口重樹参事官、山形大学岩田浩太郎教授、宮城大学土岐謙次助教、日本漆総合研究所蜂谷哲平
- (6) アンケート  
今回の「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」に対するアンケートを実施し、35件中19件回収。
- (7)西川町における漆建築の調査  
期間:平成25年11月1日~31日  
対象:西川町指定有形文化財八聖山金山神社、今回の事業で見学した要害神社、祖霊社  
漆塗りの現状を文化財修復の可能性の側面から調査を行った。目的は、今は過疎地となってしまった山中に文化的価値の高い建築が存在していることをアピールするため。

### ■事業の成果

●参加者数は十分とは言えなかった。しかしながら参加者からは概ねとても良い企画であったという評価を得た。漆の奥深さ、出羽三山の信仰の深さ、文化財を個人で守ることの限界、日本産漆の素晴らしさ等を知った、講演が良かった、個人では見られない神社を見て素晴らしさに感動した、漆は日本の宝だ等の感想が寄せられた。山形県、西川町当局や町民が漆の産地だという認識を持ち始めた。

### ■事業の実施後の課題

- まだまだ地元の文化財関係者に漆の文化的価値に対する認識は向上したとは言えないこと。
- ふるさと文化財の森の漆林の規模がまだ不十分な面積であること。
- 組織、財務の強化。

### ■今後の展開

- 山形県内および宮城県内の漆塗り建築物の文化的、芸術的価値を調査し、その結果を東京オリンピックに向け普及させ、さらにそれを観光振興及び漆植栽増に結び付けていく。
- 文化的価値の高い漆塗り建築物の文化財指定を側面から支援していく。
- 長井市、山形市での「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」への取組み準備。

平成 25 年度文化庁ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業  
大内宿茅場の維持保全と会津茅手の技能の継承をはかるための普及啓発事業

<b>事業団体</b> 一般社団法人日本茅葺き文化協会 <b>活用したふるさと文化財の森</b> 大内宿茅場 <b>活用したふるさと文化財の森センター</b> 大内宿町並み展示館（茅葺き技術研修センター） <b>活用した文化財建造物</b> 重要伝統的建造物群保存地区大内宿	<b>事業の目的</b> 本事業は、会津地方の茅葺き民家および茅葺き文化の存続をはかるため、茅葺きの素材の確保と茅葺き技術の継承への理解を深めること、茅場の維持保全活動の支援を行いその共同の輪を広げること、茅葺き技能の継承と後継者育成をはかることを目的に事業を実施する。
--	--

**事業内容**

- ①茅刈り体験研修**  
 平成 25 年 11 月 17 日 会場 大内宿茅場 参加者 30 名  
 大内宿の茅場において、熟練者の指導のもと、茅刈りの体験研修を行った。ふるさと文化財の森である大内宿茅場を維持するための担い手の育成の一助とすることができた。
- ②会津流茅葺き体験研修および育成講座**  
 平成 25 年 11 月 16 日 会場 茅葺き体験施設 参加者 30 名  
 茅葺き職人の指導のもと、茅葺きの体験研修を行った。茅葺き文化の理解と関心を深め広げ普及啓発をはかる一助とすることができた。
- ③茅葺き文化講座**  
 平成 25 年 11 月 16 日 会場 大内区集会所 参加者 40 名  
 ・「茅刈りが守るちいさいのち〜草原がはぐくむ生物多様性〜」  
 独立行政法人農業環境技術研究所 平館俊太郎 氏  
 ・「大内宿の保存と活用〜地域の力を次世代に〜」  
 大内宿結いの会 吉村徳男 氏  
 茅場は文化的な価値の他に、生物多様性を高く維持することから、生物学的に評価されている。それらを主題とした茅葺き文化講座を開催した。
- ④「全国の茅葺き集落と茅刈りと茅葺きの技」パネル展**  
 平成 25 年 11 月～12 月 会場 大内宿町並み展示館  
 来場者 延べ 2,800 名  
 蓄積してきた全国の主要な茅葺き民家、集落のほか、茅刈り、茅葺きの技のパネル展を開催し、参加者や関係者のみならず一般の観光客らに広く普及啓発することができた。
- ⑤「会津の茅葺き 技と風景」ビデオ記録制作、冊子制作**  
 平成 25 年 11 月～平成 26 年 3 月 部数 DVD100 枚、冊子 1,000 部  
 大内宿内の葺き替え現場にて、茅葺きの各工程を記録した。DVD をもとにビデオと冊子を作成した。
- ⑥「会津の茅葺き 技と風景」学習会**  
 平成 26 年 3 月 10 日 会場 下郷中学校 参加者 35 名  
 「会津の茅葺き 技と風景」記録 DVD を用いて、地元の下郷中学校にて茅葺き学習会を行った。将来の担い手となる子供達に地域の茅葺きについて関心と理解を深める機会とすることができた。



①茅刈り体験研修



②会津流茅葺き体験研修および育成講座



③ビデオ・冊子制作



⑥「会津の茅葺き 技と風景」学習会

**事業の成果**

- (1) 茅場の維持保全**  
 ふるさと文化財の森の大内宿茅場において、熟練者の指導のもと、茅刈り体験研修を行った。参加者は、多雪地帯の大内宿での茅刈りの適期、茅刈り方法、束ね方、乾燥方法、保管方法および茅場の維持管理方法の理解を深めることができた。研修では 15 駄刈り取り、体験にとどまらず実質的な茅刈りの助けとすることができた。
- (2) 会津茅手の後継者育成**  
 大内宿結いの会の指導のもと、茅葺き体験研修を行い、会津茅手の茅葺きの技を都市住民や学生が体験習得することで、茅葺き文化の理解と関心を深め、より広くその支援者のすそ野を広げ普及啓発をはかる一助とすることができた。体験研修を通じて今後の継続が期待できる交流ができた。
- (3) 会津茅葺き文化の普及啓発**  
 茅葺き文化講座によって、茅場の役割、特性、生物多様性の宝庫としての重要性および大内宿の年中行事や暮らしの中で受け継がれている取り組みについて理解を深めることができた。「全国の茅葺き集落と茅刈りと茅葺きの技」パネル展を大内宿町並み展示館で開催し、参加者や関係者のみならず一般の観光客らに広く普及啓発することができた。  
 大内宿内の結いによる葺き替え現場にて、ビデオ記録をし、これらを DVD「会津の茅葺き 技と風景（後編）」と、冊子「会津の茅葺き 技と風景」にまとめた。この記録を用いて、地元の下郷中学校にて茅葺き学習会を行い、将来の担い手となる子供達に会津の茅葺きについて関心と理解を深める機会とすることができた。

**事業実施後の課題**

- (1) 茅刈り支援の拡大と組織づくり**  
 茅刈り体験研修は、体験にとどまらず実質的な茅刈りの助けとすることができた。今後は、この新たな担い手を含めた茅刈りの支援の拡大とその組織づくりが課題となる。
- (2) 茅葺き技能研修の育成プログラムの整備**  
 茅葺き体験研修は、初めて茅葺きを体験する一般市民や学生などの参加者にとっては、時間も内容も適切であった。一方、茅葺き経験のある参加者にはステップアップできるような体系的な技能研修を望む声も多く、技能習得のための育成プログラムの整備が課題となる。
- (3) 普及啓発を継続するしくみづくり**  
 会津の茅葺きの記録を用いた学習会によって、地元の子供達は地域の茅葺き集落やその技について関心を持ち理解を深めることができた。今後もこの学習会を継続できる仕組みづくりが課題となる。記録映像や冊子は、今後の技能研修にも役立てる教材として蓄積していくことが必要である。

**今後の展開**

- (1) 茅場の維持保全活動の支援**  
 大内宿のみならず、高齢化がすすむ集落では、茅刈りが住民の大きな負担となっている。そこで茅刈りに関心の高い都市住民を含め、共に作業し、交流をすることで、茅刈りの支援の拡大と自立的な組織づくりにつながる取り組みを継続する。
- (2) 茅葺き技能の継承と後継者育成**  
 大内宿では、屋内で屋根葺き研修が可能な施設が整っており、地元での後継者育成にも取り組んでいる。これらの環境と蓄積を活用して、技能研修の育成プログラムの実施を試み、今後の全国各地での技能研修のモデルづくりにつなげる。
- (3) 茅葺き文化の普及啓発**  
 これまでの成果である DVD や冊子を教材として、地元の子供達への学習会を継続し、担い手への継承を中心に、広く普及啓発をはかる。さらに継続して全国各地の事例も蓄積していく。

## ◆ 事業名 石川茅人(カヤビト)検定プログラム

<b>事業団体</b>	特定非営利活動法人 石川県茅葺き文化研究会	<b>■事業の目的</b> 金沢ふるさと文化財の森センター及び金沢湯涌茅場のある金沢湯涌地域と、金沢市内の小学校を中心に普及、啓発事業を展開。湯涌地域では、「花咲く湯涌まるごとフェスタ秋まつり2013」との同時開催で、祭りの来場者を対象に、また小学校では、金沢市「協働まちづくりチャレンジ事業」と連携して、子供たちとその保護者を対象に茅文化を発信する。
<b>活用したふるさと文化財の森センター</b>	金沢湯涌茅場	
<b>活用した文化財建造物</b>	金沢湯涌江戸村 旧野本家住宅	

### ■事業の内容

- (1) 石川茅人検定プログラム「葺く」：「花咲く湯涌まるごとフェスタ秋まつり2013」での同時開催。茅の結び方、茅のおき方、茅の整え方を学ぶプログラムである。全長50mの竹で組んだサークル状の骨組に、一人当たり1.35m幅で3段づつ茅を葺いていく。参加者には検定参加証明書(検定札)を配布し、好評を得た。
- (2) 石川茅人検定プログラム「刈る」：メガヤの見分け方、鎌の使い方、効率的な刈り方、束の作り方、茅場保全の方法を学ぶプログラムである。2日間で約150束のメガヤが刈り取られた。刈り取られたメガヤをトラックで江戸村に運び、旧高田家の雪囲いを制作した。
- (3) 石川茅人検定プログラム「束ねる」：約2か月間乾燥させていたカリヤスを、品質の良い茅葺き屋根材料にするために必要な3つの工程「すぐり→箱詰め・縄締め→根本切り揃え」を学ぶプログラムである。すぐりの重要性、茅束ねの基本、縄結びの技術的レクチャーの後、それぞれの役割にわかれて交代しながら順次体験した。
- (4) 小冊子「ブッキーとなかまたち かやじいの救出」作成：茅葺き屋根を巡る営みや自然などについて直感的に伝わる絵本を製作。かやぶき屋根に暮らす「かやだま」という子供に親しみやすいキャラクターが登場。茅葺き屋根の材料、茅の生える自然環境、茅刈り、茅葺きについて、物語の中でキャラクターと一緒にわくわくドキドキしながら知ることができる。
- (5) 「平成25年度協働まちづくりチャレンジ事業」と小冊子配布：金沢市の「協働まちづくりチャレンジ事業」と連携して開催。金沢市立菊川町小学校の中庭に茅葺きの東屋を実演で制作し、合わせて日本と世界の茅葺き建築の紹介パネルを展示する。実演、パネル展の後、制作した絵本「ブッキーとなかまたち かやじいの救出」を子供たちに手渡した。



石川茅人検定プログラム「葺く」 祭りのメインステージ近くで「茅葺き」プログラムを実施 検定プログラム「葺く」の検定札と男結び 石川茅人検定プログラム「刈る」

## ◆ 事業名 石川茅人(カヤビト)検定プログラム



テピッコも張り切って茅を刈ってくれた 茅を使った雪囲いは、かつての原風景をよみがえらせる 石川茅人検定プログラム「束ねる」 茅人認定証

記念Tシャツの贈呈 完成した絵本の表紙 完成した菊川町小庭園 東屋 小学校での絵本配布の様子

### ■事業の成果

- 石川茅人(カヤビト)検定プログラムによる普及啓発事業では、参加者86名と会員を含め123名で活動が出来た。参加者3000人の「花咲く湯涌まるごとフェスタ秋祭り2013」での同時開催で、「葺く」では検定プログラムに直接参加されなくても、多くの方に見学、お声掛け、質問をいただくことができた。
- 小学生に小冊子で茅文化を伝える普及啓発事業では、実演やパネル展の後に、絵本「ブッキーとなかまたち かやじいの救出」を子供たちに手渡すことで、より親しみとリアリティーを持って、茅と茅葺き師の存在を感じてもらえた。菊川町小学校生徒、先生合わせて250人に配布し、大変喜んでいただいた。

### ■事業の実施後の課題


アンケートの結果から、茅には多くの人を惹きつける魅力があり、興味を持って頂けることがわかった。しかし、限られた日程ため、茅人検定プログラム3ステップを一年間で終えることは難しい。また、「束ねる」で参加者を大幅に減らしたことは大きな課題で、季節的なこともあるが、広報活動や準備が不十分であった。「茅文研」の認知度が限られたものであることも浮き彫りになった。

### ■今後の展開

今年度の事業は、他の事業との連携によって実現された。連携によって対象者の拡大、広報の拡大、事業資金の拡大、行政協力の拡大などのメリットがあった。また今後継続することで、茅葺きを知らなかった子供達や大人の方々を取り込んで大きな輪に広がり得る可能性を見出すことが出来た。特別な知識を持たない子供たちは、単に茅に触れて遊ぶだけで夢中になれる。成長とともに進展するプログラムがあれば、より深く根を張った輪となり得る。今後これらの事業を継続すると共に、茅の生産、茅葺き屋根の修繕、茅資材の活用方法の開発などに直接参加いただける方を増やす取り組みを企画したい。茅を通して資源循環型の豊かな生活環境を提案し、都市と田舎を結ぶ人の循環をつくりたいと考えている。

## ◆ 文化財建造物保存活用公開セミナー

### 事業団体

 公益社団法人  
全国社寺等屋根工事技術保存会

### ■事業の目的

文化財建造物保護のために必要な植物性資材の原材料、作成及び使用方法(技術)等を中心に保存技術について広く一般の方々を対象に普及啓発を図る。当該事業を通じ、文化財保護における資材の重要性の意識を高め、知識習得の場を提供する

### 活用したふるさと文化財の森センター

京都市文化財建造物保存技術研修センター

### 活用した文化財建造物

知恩院御影堂、清水寺(境内)

## ■事業の内容

### (1) 文化財講演会

日時：平成25年11月2日(土)10:15~11:45  
会場：京都市文化財建造物保存技術研修センター(京都市東山区清水2丁目205-5)  
共催・協力：京都市、(公財)大学コンソーシアム京都  
対象：一般(公募)事前申込みによる  
参加者：90名  
内容：『桂離宮の建築に使用された木材とその加工技術』  
講師 京都女子大学家政学部生活造形学科 教授 斎藤英俊氏

### (2) 文化財建造物の保存技術を紹介する特別展(展示、実演、体験コーナー)

日時：平成25年11月2日(土)9:00~3日(日)15:00  
会場：清水寺境内、京都市文化財建造物保存技術研修センター  
協力：清水寺、選定保存技術保持団体(6団体)  
(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会、日本伝統建築技術保存会、全国文化財壁技術保存会、社寺建造物美術協議会、文化財量保存会、全国伝統建具技術保存会  
対象：一般  
参加者：2,000名

### (3) 「鞍馬山国有林」(古事の森)における檜皮採取見学会

日時：平成25年11月2日(土)14:00~16:00  
会場：鞍馬山国有林(『古事の森』京都市左京区鞍馬本町字鞍馬山)  
協力：近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所  
対象：文化財講演会参加者  
実演者：(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会 原皮師2名



文化財講演会



実演、体験コーナー



檜皮採取実演見学会

## ◆ 文化財建造物保存活用公開セミナー

### (4) 保存修理現場見学(自由参加)

日時：平成25年11月3日(日)13:30~15:00  
場所：知恩院御影堂保存修理現場

### (5) 親子スタンプラリー

日時：平成25年11月3日(土)10:00~15:00  
会場：知恩院御影堂保存修理現場、清水寺境内、京都市文化財建造物保存技術研修センター  
協力：京都府教育委員会、京都市教育委員会  
対象：京都市下の小中学生  
参加者：親子6組(14名)



特別展示



親子スタンプラリー



学生ボランティアの活用

## ■事業の成果

今年度も例年同様のセミナープログラムを実施したが、11月2日、3日の2日間で2,000名をこえる来場者があり、盛況のうちに終了することが出来た。また、これまで以上に、より幅広い年代層に訴えることを目的として、新たに「親子スタンプラリー」を実施した。文化財講演会に始まり、檜皮採取見学会、清水寺境内での実演、体験コーナーの設置、さらに京都府主催の現場公開とのタイアップ、親子スタンプラリーと数多くのプログラムを実施し、文化財の大切さを多くの方に感じて頂けたのではと思う。

## ■事業の実施後の課題

- プログラムの内容について、講演会と採取見学会をセットにしたり、スタンプラリーでは修理現場と実際の技術の実演をつないだり、今年度も様々な角度からプログラムを計画し、実施内容としては十分であると思うが、より体系的に文化財を支える技術を知見享受できる場の提供方法はさらに検討しなければならない。
- 広報の実施方法について、インターネットの活用や市民新聞以外の広告媒体(京都新聞やNHK、民放TVなど)の活用も検討しなければならない。また、ポスターの掲示場所もより多くの場所に掲示することにより、多くの方に周知できればと思う。

## ■今後の展開

- 今年度で8回を数える当セミナーであるが、毎年少しずつ内容を変えながら開催してきた。後援団体や協力機関も増え、事業を推進する大きな力となっている。今後も多くの協力団体と共同で事業を推進して参りたい。文化財を支える技術をより多くの方に知って頂くためには継続していくことが何よりも大切であると考え、次年度以降も同様のセミナー開催を計画する。
- プログラム内容を(1)不特定多数を対象としたプログラムと(2)対象者を絞ったプログラムの二つの軸を中心に展開する。前者はより多くの方に知って頂くことを目的とし、後者では、より専門的な知識の習得と「文化財を支える技術、資源」について体系的に学習できる場の提供を目的とする。

## ◆ 平成25年度滝畑ふるさと文化財の森センター普及啓発事業

<b>事業団体</b>	大阪府河内長野市教育委員会	<b>■事業の目的</b>
<b>活用したふるさと文化財の森</b>	岩湧山茅場 千石谷のスギ・ヒノキ林	茅材・檜皮を中心とした植物性資材の育成を行い、文化財を保全するとともに、文化財愛護精神を育もうとする「ふるさと文化財の森」の意義の普及啓発を目的として実施する
<b>活用したふるさと文化財の森センター</b>	河内長野市立滝畑ふるさと文化財の森センター	
<b>活用した文化財建造物</b>	重要文化財 豊島家住宅 (平成25年度茅供給)	

### ■事業の内容

- (1) ふるさと文化財の森普及啓発及び茅刈体験事業  
環境スポーツイベント（「奥河内 SEA TO SUMMIT 2013」・平成25年11月23日～24日）のゴール地点に岩湧山頂が設定されており、この機に参加者及び関係者に「ふるさと文化財の森」普及啓発事業の紹介として、「千石谷のスギ・ヒノキ林」「岩湧山茅場」のワークショップ及び環境シンポジウム内で茅場の紹介として、「岩湧山と茅」の講演を行った。
- (2) 文化財修復資材育成（茅刈り体験）事業  
江戸時代の元禄年間（17世紀末）には刈られていた岩湧山茅場で、茅の刈り取り作業を体験することで、茅場を維持することの意義や茅刈りの伝統を後世に伝えることの重要性を考える機会とした。また、茅場の希少植物の生育に見られる自然環境との共存などを理解してもらい、現代社会が見過ごしている気候風土に順応した生活スタイルをみつめなおす機会にすると共に、これからの茅刈りや山焼きの支援者の育成を目指した
- (3) 文化財修復資材普及啓発事業  
文化財修復資材普及啓発について、市内の小中学生を対象に事業を行った。小学生には「昔の暮らし」をテーマとした滝畑地区の暮らしで「茅」の活用のされ方や、茅葺き民家の様子を紹介するなど興味付けを図った。中学生には「岩湧山の茅を知る」をテーマとし、茅の屋根葺き材としての活用方の講義とともに、素材に触れる体験として茅保管庫内の整理及び職場体験ではかやご編み体験を実施した。



ふるさと文化財の森普及啓発事業



茅刈体験事業



茅倉庫整理



檜皮採取研修会 下草刈

## ◆ 事業名

- (4) 檜皮採取研修会  
公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会との共催による、国宝重要文化財及びそれらに準ずる文化財建造物の保護に供する檜皮葺屋根資材の確保と檜皮採取の後継者育成を主たる目的に、檜皮採取者の養成研修並びに檜皮採取林の育成事業を実施した。  
なお、事業実施に伴う関係機関との調整及び研修エリアへの動線整備（下草刈り）等の準備作業については本市教育委員会が、研修会の運営については保存会が行った。

### ■事業の成果

●茅葺き民家の減少と関係者の高齢化などにより、茅刈り・山焼きなどの地域の伝統及び技術が維持できなくなりつつある中、伝統を継承しながら良質な茅を安定的に供給し、茅場を構成する自然環境の保護を進めるために、地域住民を講師とするなど地域と連携して実施した茅刈体験や、小中学生に対して学校教育の中での教育的な普及啓発や環境保全やスポーツに関心の高い人など今までとは異なった層の方々に対する普及啓発を実施したことにより、より広く知ってもらうことができ、茅保全や育成のための活動に理解を深めるための機会をもち、協力者を育成していくことができた。

●檜皮採取研修会については、「ふるさと文化財の森」に設定されている岩湧山の南にある南葛城山（標高922m）周辺の市有林において、文化財建造物修理用の檜皮供給地として活用するために、全国社寺等屋根工事技術保存会との共催することにより、国宝重要文化財及びそれらに準ずる文化財建造物の保護に資するための檜皮葺きの利用促進と檜皮採取者の後継者育成に努めることができた。

### ■事業の実施後の課題

- 小中学生に対する普及啓発については、長期に渡り、継続しなければ、効果は期待できない。
- 今年度と違った層の方々に対する普及啓発もまだまだ可能であると考えられる。

### ■今後の展開

- 大学生など新たな対象者に対する普及啓発事業の実施を検討していく。

## ◆ 事業名 秋の奥河内 重要文化財天野山金剛寺多宝塔修理現場特別公開

事業団体	非営利活動法人 文化遺産保存ネットワーク河内長野	<b>■事業の目的</b> 金剛寺は、多数の指定建造物があり、常に修理が行われているうちに、境内にふるさと文化財の森が設定されていることから、文化財建造物の保存修理や修理用資材に対する理解を深める目的において、格好の普及啓発の場と言える。さらに地元小学校との共催も3年目に入り、継続的に子ども達の文化財愛護及び郷土愛の育成を目的とする。
活用したふるさと文化財の森	金剛寺ヒノ木林	
活用したふるさと文化財の森センター	—	
活用した文化財建造物	重要文化財天野山金剛寺多宝塔、金堂、摩尼院書院	

### ■事業の内容

- オープニングセレモニー**  
事業開始に先立ち、参加者、関係者を含めて開会式を開催した。芝田河内長野市長はじめ文化庁鈴木参事官補佐、大阪府教育委員会地村総括主査から挨拶をいただいた。
- 重要文化財 多宝塔修理現場公開**  
多宝塔初層のトチ葺による屋根修復を足場上から公開した。解説は(公財)文化財建造物保存技術協会担当者により午前1回、午後1回実施し、見学者が増加した場合は適時対応した。危険防止のため見学者はヘルメットを着用、最大40人の見学とした。参加者450名
- 重要文化財 摩尼院書院特別公開**  
書院内に見学順路を設け、実施した。解説は文化財ボランティアが随時、寺住職が2時間毎に行った。参加者300名
- 重要文化財金堂修理現場公開及び金堂修理工程写真展示**  
覆屋内の1F・2Fに見学順路を設け、1Fに修理修復工程がわかる写真を時系列に並べて展示した。解説は文化財ボランティアや担当者が質問を受ける形式で実施した。参加者数500名
- 子ども文化財解説**  
天野小学校6年1組(22名)・2組(23名)が境内の多宝塔、金堂、御影堂、鐘楼と食堂、楼門、摩尼院、天野川沿い子院群、開山堂で4、5名を1グループとして10グループが、事前学習の成果を見学者を前にして発表した。参加者数180名。
- 実演体験**  
台カンナ、檜カンナの実演及び一般見学者による体験を実施した。また枡葺の実演と一般見学者による竹釘の打込み体験を実施した。子供たちに人気が高かった。なお、檜皮採取に関しては、採取地の進入路が実施直前に通行不能になり、見学者の安全のために急遽中止した。参加者数300名。
- 講演会**  
演題「仏教彩色と金剛寺」講師宮本道夫氏(京都市立芸術大学教授)  
金剛寺の建造物彩色について説明があり、彩色のルーツを中国、ミャンマー、ネパール、インドにまで求める内容であった。参加数50名。
- 寺宝公開**  
寺宝である国宝「剣」をはじめ重要文化財の仏教絵画及び古文書を展示公開した。参加者300名。

## ◆ 事業名 秋の奥河内 重要文化財天野山金剛寺多宝塔修理現場特別公開



### ■事業の成果

- 金剛寺の修理は5年目を迎え、折り返し点であり、これから組み上げに進んでゆく時期である。今回の多宝塔は屋根の修理が主であり、トチ葺の修復作業は、通常見ることができない作業である。参加者は近に見学したり、体験することによって、文化財修復と植物性資材に対する理解を深めることができた。
- 地元小学校の「ふるさと学」の一環として「郷土学習」の成果発表として事業を共催した。毎年6年生が郷土の文化財を学び、そのよさを自らの言葉で発信することによって、継続的に子ども達が文化財愛護の精神を高め、郷土に対する誇りと愛着を育てることができた。

### ■事業の実施後の課題

- 開催時期について。事業の性格上秋期以降の開催は免れないが、季節、準備期間を考慮すれば11月となり様々なイベントと重複する。また、子ども解説を入れると学校側のカリキュラムを優先しなければなくなり、開催曜日に制約ができる。
- 事業のマンネリ化。公開を毎年実施したいが、現場公開以外の催しがマンネリ化にならないように工夫しなければならない。たとえば、匠の技等もこの公開場所でも実施されており、内容など検討しなければならない。

### ■今後の展開

- 天野山金剛寺の修理は平成29年度まで継続される事業であり、今後も実施し、完了までの一連の修復工程を公開することにより、文化財保存の重要性や修復資材の重要性を知らしめたい。
- 金剛寺修理事業が終了する頃には、重要文化財長野神社はじめ植物性資材を使用した市内の指定建造物が葺き替え後30年以上となり、再び葺き替えの時期となる。このことから、植物性資材の重要性と文化財保存についての周知が必要であり、継続的な普及啓発事業を進めたい。